

## 平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

### 1. 学校概要

学校名 新城市立作手中学校  
 種 別  保育園・幼稚園     小学校     小中一貫教育  
        中学校                 中高一貫教育     高等学校  
        教員養成                 技術/職業教育  
        特別支援学校            その他（                ）  
 所在地 〒441-1423  
       愛知県新城市作手高里字ブック田5番地  
 E-mail tsukude-jh@city.shinshiro.ed.jp  
 Website <http://www.city.shinshiro.ed.jp/tsukude-jh/>  
 児童生徒数 男子 35名    女子 29名    合計 64名  
                   児童・生徒の年齢12歳～15歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ 地域遺産、地域理解 ）

### 3. 活動内容

#### (1) 1年間の主な活動

作手地区は山間地に位置し、人口減少と共に小学校の再編が進められ、過疎化への対応が課題となっている地区である。平成28年2月、新東名、新城ICが開通し、新城ICから作手地区中心地まで約40分とアクセスも向上し、観光、産業（農業、林業）の面でも期待が持たれている。

本校では、作手地区の自然や文化を愛し、将来地区に貢献できる生徒の育成を目指している。作手地区の自然、史跡、人材を生かしたさまざまな体験をESDの視点から見直し、活動に取り組んでいる。

外国語活動も重視し、毎週水曜日を「英語の日」とし、日常生活の会話はできるだけ英語で行うようにしている。また、生活日記も水曜日は英語で書くようにしている。

#### <5月>

##### ○地域行事「古城まつり」への協力 ～和太鼓クラブ・弓道部の参加～

作手地区には戦国時代の武将に関わる山城が多く存在している。それを舞台に、新城市内外の多くの人の参加を呼びかけ、地域活性化を図る取り組みの一つが「古城まつり」である。本校「和太鼓クラブ」、「弓道部」の生徒も参加し、地域の文化を発信するために協力している。

##### ○修学旅行「外国人にインタビュー」

修学旅行で訪れた鎌倉での班別研修の際には、「外国の方と話そう」というミッションを実施した。たどたどしい会話ではあったが、多くの生徒が海外からの旅行者と触れ合うことができた。学校のメールアドレスをお伝えしたところ、日本旅行での思い出をメールしてくださった方もいる。



作中和太鼓演奏  
(作手手づくり村にて)



外語の方と話そう  
(鎌倉班別学習にて)

#### <6月>

##### ○地域清掃活動「クリーンアップ作戦」

学校周辺の主要道路の清掃活動を行い、地域の環境美化に努めている。

##### ○林業体験活動（1年生：総合的な学習）

本校は学校林を5ヶ所保有しており、1年生が学校林の間伐作業などの体験を行っている。当日は、県林務課の職員、地元の林業家、保護者の協力を得て、林業について講義、間伐作業、材木の運搬などを行い、林業についての理解を深めている。



間伐材の運び出し  
(川尻学校林にて)

<6月～10月>

○人工湿原へのミズバショウの定植（中高連携）

湿原の復元活動の一環として、本年度は「ミズバショウ」の定植活動を行った。2年生が総合的な学習の時間を活用し、地元高校生と共に作業を行った。条件が良ければ、次年度の春に開花を見ることができるとのことだった。



ミズバショウの定植  
（中高連携事業の一環として）

○花だん整備と栽培活動 ～総合的な学習「環境」～

総合的な学習で「環境」を学習するグループは、学校近隣の2ヶ所の湿原の観察、環境整備活動、栽培体験を3年間のローテーションを組み実施している。本年度は、花だんで育てたアイを使ったたたき染め、通学路沿いに植えられているシバザクラから挿し穂を採取して挿し芽を行い、シバザクラの株を増やす活動などにも取り組み、活動の成果を文化祭で発表した。

○地域との交流（地域理解）

自分たちが暮らす地域について知り、大切に思う気持ちを育むことが、国際理解につながるという考えから、総合的な学習の時間を中心に地域と関わる活動を取り入れている。

・山村交流施設の活用、地域との連携を考える（3年生：総合的な学習）

老人福祉介護施設訪問、こども園や小学校の訪問などの活動を毎年行っている。平成29年には、合併した地域の小学校の新校舎と共に山村交流施設が建設される。本年度は、新校舎、山村交流施設建設に関わる設計士、大学の教授、役所の方を交え、山村交流施設を核とした地域の活性化についての意見交換会を数回持つことができた。

<11月>

○文化祭での情報発信

・総合的な学習の成果発表

これまで学習してきた内容を地域の方、保護者をはじめとする多くの方々に報告した。1年生「林業」について、2年生「職場体験学習」について、3年生「地域と学校のあり方」をテーマに発表を行った。市役所の方、地域の方から、「よく考えている」「地域のことを分かりやすく説明してくれた」などの感想も寄せられた。

・地域交流体験「絆講座」

地域のさまざまな分野で活躍されている方を講師として呼び出し、その方の持っている技能を学ぶことで、地域との絆を深めたいと考えている。また、保護者や地域の方にも参加を呼びかけ、本校の取り組みを外部に発信する場としている。講師については、地域の活性化を目指す団体「作手を考える会」に紹介していただき、5つの講座を開設した。



間伐材（製材所で製材）を利用して  
生活に役立つ物を製作

作中祭		絆講座開設講座
NO	内 容	
1	蒔 絵	漆と金銀の粉を使って蒔絵風の絵をかきます。
2	絵手紙	ジャンル自由で、はがきに絵手紙をかきます。
3	苔 球	根のまわりを土で包み、苔植物を貼りつけた苔球をつくります。
4	竹トンボ	ナイフを使って竹を加工し、竹トンボを制作します。
5	匂い袋	フェルトなどを使って、匂いのもとを入れる匂い袋をつくります。

### ○地域清掃活動「クリーンアップ作戦」

地域行事「つくで祭り」会場の清掃活動を行う。作手地区で最も大きな催し物で、地域の方も楽しみにしていると共に、遠方より参加される方も多い。来場された多くの方が、気持ちよく過ごすことができるように、生徒会が中心となり清掃活動を行っている。



つくで祭り会場の清掃活動  
(生徒会 整美委員会主催)

### ○地域行事「つくで祭り」への協力

～赤十字募金活動協力、地域作品展参加～

地域福祉団体の要請に応じ、3年生が中心となって、赤十字募金を呼びかけた。別会場で行われる文化作品展には、作手地区のこども園、小学校、中学校、高等学校から生徒の作品が寄せられ展示された。

### <12月>市英語科研究授業

普段の英語の授業では「話す」活動にも力を入れている。3年生「Which do you want to live in Tsukude or in other city?」(ディスカッション)の授業では「作手の良いところ」「他地区の良いところ」を例に挙げ、将来作手に住みたいのか、他の地区に住みたいのかを英語で議論した。この授業は新城市の英語科の研究授業として行われ、指導にいられていた愛知教育大学の英語科教授からも高評価をいただいた。生徒の力をより高めるための提案や新たなアプローチについてもご指導いただき、有意義なものとなった。



英語でディスカッション  
(新城市英語科研究授業)

### <3月>

#### ○椎茸栽培実習(1年:総合的な学習)

豊かな山林を活用する取り組みの一つとして「椎茸栽培実習」を行っている。近隣の高等学校の協力を得て、椎茸の栽培方法の学習とほだ木に穴を開け、菌を打ち、収穫までを体験する。実際に収穫するには2年ほどの期間がかかり、自分たちが収穫して食べるというより、後輩達のために栽培している。



高校生の指導の下、椎茸の菌打ち  
(中高連携)

### <3年間を通して>

#### ○中高連携によるサギソウ栽培活動

本校は、近隣の高等学校と連携型中高一貫教育に取り組んでいる。高等学校教員が中学校の授業に参加、中学校教員が高等学校の授業に参加するほか、環境保全活動などでの交流を行っている。その中でも、中心的な取り組みとなっているのが、湿原の希少植物「サギソウ」の栽培活動である。



湿原を代表する植物  
サギソウ

サギソウは発芽率が低く、限られた環境でしか生育できない植物である。サギソウを増やすためには、人の手で環境を整え、効率的に栽培を行っていく必要がある。高等学校のバイオテクノロジー技術を学び、3年間で「授粉」から「地域への定植」というプログラムを実施している。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ 夏休みなど、休業日を活用 ）